

第3回 苫小牧市男女平等参画を推進する市民会議 会議録（概要）

- 1 日 時 令和元年11月15日(金) 13:30～15:00
- 2 場 所 苫小牧市消防本部防災訓練センター 2階会議室
- 3 会議概要

○市長挨拶

文字どおり、男女平等参画を推進する市民会議ということで、一回目、二回目を経過して、今日で第三回目を迎えます。お手元の経過表をご覧ください。簡単な資料ではありますが、この第三回目の位置づけを一定程度、共有させていただきたい。

第一回市民会議は目的の共有、その後、それぞれの課題、みなさまの思いを一つ一つ出させていただきました。第二回目はその55の課題を集約した25の課題、つまり取り組みの優先度の整理をする目的で、いろいろ意見交換をさせていただいた結果、ご提出いただいた課題、それぞれはすべてリンクしているのではないか、というような結論に至りました。これはペーパーだけではなく、事務局が、みなさまひとりひとりのご意見等を伺った中での論点整理ということになります。

そこを踏まえまして第三回目の今日は、いよいよ我々の目的であります、男女平等参画都市、あるいは男女平等参画社会という時代の要請と私は申し上げますが、それに向けて具体的に取り組む、行動に移していくための、ひとつの意見交換の場にしたい、と考えておりますので、ぜひ忌憚のないご意見を聞かせていただければと思います。

十人いたら十通りの様々な意見がある問題でございます。そうした意見を十分踏まえて、最終的にこれからの具体的な行動については一定程度、座長にお任せいただきたいと思います。できるだけ皆さんの合意、あるいは現状を踏まえて、我々のターゲットであります男女平等参画をどうやって目指したらいいか、具体的な一歩を踏み出すイメージをより明確にできれば、と考えておりますので、限られた時間ではありますけれども、よろしくお願いを申し上げます。

○メンバーからの御意見

今回の会議の開催にあたり、事前に配布された資料の中にフィッシュボーンチャートがありました。これを今回、使用しないことになったと伺いました。理由はお聞きしませんが、実は私はこのチャートに初めて触れました。非常に論点が整理されていて、自分の意見がどこにあるのかということがわかって、大変いいなというふうに思っていました。

例えば、私が提案いたしました課題のひとつ、「男性保育士が足りない」という課題がこのチャートに書かれていました。ですから、この課題についてみなさんがどのように思っているのかぜひ知りたかった、それができなくなって大変残念に思います。このシートに端を発しいろいろな論点で話ができるんじゃないかと期待しておりました。

ワークショップということでいろいろな意見を聞く必要性が十分にあると思います。先ほどの「男性保育士が足りない」という課題について話をするができなくなりましたので、私の方から説明させていただきたいと思います。

保育士というのはほぼ女性が中心になっています。これまでは、ほとんど保母さん、字も「保」

「母」と書く。男性が資格をもっても、それは保育士という資格ではなく保母という資格。男性に対して保母と呼ぶのに抵抗があるということになったため、今度は国が「保父」、保育の「保」に「父」と書く。そういうようなやり取りがありました。正式な名称は「保母」であるため、正式文書の職業欄に、正式名称である「保母」と書くしかなかったんです。それが、男女平等の雇用機会均等法が出て、福祉法の施行令が改正されて、「保育士」に改称されたという経過があります。

ただ、男性保育士は需要もありますけれども、例えばセクハラや性犯罪等の観点から、保護者が男性保育士を敬遠することもありました。私は市長との意見交換会で、なぜ男性保育士が増えないのか、いろいろお話をさせていただいた経験もあり、今回、そのようなことを皆さんの前で、説明し、お話をいただくことができると期待していましたので、非常に残念に思っております。

また、事務局から事前に配布された資料の中にもずいぶん漏れている点があるように思いました。資料3「男女平等参画基本計画（第3次）と課題の相関表」は、総合的な位置づけがされておらず、目標自体の分け方も十分にできていない。それと、資料4「フィッシュボーンチャート」に書いてある数字は、どことリンクしているのかが明記されていない。このような点も含めて、運営の計画や事前配布の資料については、さらに検討していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○事務局

ご意見ありがとうございます。ただいまご指摘いただきましたフィッシュボーンチャートの使い方につきましては、この後事務局からご説明させていただきます。フィッシュボーンチャートはあくまでも原因分析をするための一つの手法、ツールでございます。本日、原因分析をすることに変更はございませんので、どうか、みなさまお考えいただいたことをグループワークの中で、また全体発表の中でおっしゃっていただければありがたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

●グループワーク

①グループディスカッション

- ・課題を提出するに至った背景
- ・あなたが考える、根本原因

②ミッションステートメント（目標）を明確にする

- ・ミッション（的）を一つに絞る
- ・数値目標と期限を入れる

●グループ発表

【グループ A】

- ・意識改革とワークライフバランスは、結局はリンクしていて、共通のもの
- ・両方に共通するような原因分析を行った
- ・みなさん現実感としてとらえられてない、納得感がない、腑に落ちていない、キーワードは「浸透不足」
- ・時代に合わない制度等の縛りも、女性活躍が進まない一因
- ・男女平等参画とは、人権である、人間尊重が必要
- ・仕事への誇りは皆さん持っている
- ・長期的な方策としては教育。例えばたばこの喫煙率について、今の若い世代に吸わない人が多いのは、小学校のころから「健康を害する」と叩き込まれているから。小さい頃から男女平等参画意識の醸成を図る教育をしてはどうか
- ・中期的にはやはり、浸透させる、納得感を得ていただくようにする。男女平等の世界を常識にするには、先ほど縛りがあるといった制度を変える
- ・保育士不足・待機児童の問題を解決していくような現実的な制度やケアを
- ・啓発活動を、都市宣言や広報をはじめ、様々な機会を通じてやっていく
- ・職場・企業・団体でも意識を高めていく
- ・ミッションステートメントを明確にするまでは議論が進まなかった

【グループ B】

- ・固定的な役割分担意識が問題
- ・家事子育ては女性の専門、あるいは保育園に行っても、お母さんの社会。主夫、「主」「夫」の方がグループにいらっしゃる、「女に食わせてもらってる」「ヒモ」と思われてしまう現実
- ・保母さん→保育士、看護婦さん→看護師に変わってきている
- ・カッコいい男性が出演している料理や洗濯等のコマーシャルもある
- ・都会ではお父さんが保育園・幼稚園に迎えに行くのも当たり前になってきている等、地域性も出てきている
- ・つまり男女平等参画社会が成熟期に入っているのでは
- ・男女平等参画社会の進みによって人生100年、バラ色の人生になる
- ・方策は「子育て世代の応援」と「周知・啓発」
- ・お父さんの育児時間が長くなると第2子以降が生まれやすくなること、ワークライフバランスが進むと生産性が上がること、専業主婦＝貧困に結びつく可能性もあるなど、男女平等参画を推進することによって得られるメリットを、もっともっと知ってもらったら良いのでは

【グループ C】

- ・保育士や看護師のように男性の活躍が目立たない職場、また、工場など女性の活躍目立たない職場、それぞれやっぱり偏りがあって、抱えた問題は男女が違うけれど同じ
- ・根本の原因は、共通している性に関する社会のイメージ
- ・男性も女性も働きやすい社会をめざすためにという視点で議論
- ・共働きの率を上げるにはどうしたらいいのか、なぜ女性が働きにくいのか
- ・保育園・幼稚園以外に預け先がない(日祝・早朝深夜は対応してもらえない)
- ・学童(特に小学校低学年)を一人家に留守番させたくないが、早朝・深夜の学童保育がない
- ・誰にでも預けられるわけではない、信頼できる人、安心して預けられる預け先が必要
- ・両親や幼稚園保育園に限らず、信頼できる第三者に、時間曜日問わず預けられたら良い
- ・病気の時も預けられるサービスがあればなお良い
- ・市民会議として取り組むべき目標は、信頼でき、安心して子どもを預けられる預け先を作ること
- ・数は多ければ多い方が良い、増えすぎた場合は高いホスピタリティの施設やサービスに人が集まり、淘汰されより洗練されていく
- ・ミッションステートメントは、「企業と行政と地域が協力して、10歳までの子どもを安心して預けられる施設やサービスの数を、現状の倍にする」
- ・ポイントは3つ。
 - ① 企業と行政と地域が協力すること
 - ② 多くの場合、小学校入学前(6歳)までの保育が目標にされがちだが、工場や病院が多い(=シフト制勤務や夜勤が多い)苦小牧らしさを出し、保育の対象を小学校低学年(10歳)まで引き上げること
 - ③ 「信頼」でき、「安心して預けられる」預け先にこだわる事
- ・余談ですが、息子が体調不良で幼稚園に預けられず、今日は子連れで参加した。日々私が男女平等参画推進センターに通っていることもあり、息子とセンター長の関係性が保たれているから、センター長がああやっつと抱っこして遊んでくれた。父親も母親も働いて忙しくなるなら、こんな風に、信頼できる第三者をどういうふうに増やしていくか、今後具体的に話を進めていけたら良いと思う

●全体会

・市長

完成系とはえないまでも、それぞれのグループで行われた今日の議論のプロセス、あるいは角度というものをもう一度振り返り、論点整理をしながら、次回は、具体的なミッションについて提案をして、またご意見をうかがうような場にしたいと思います。そのうえで、みなさまのコンセンサスを得られるようであれば、そこから先、具体的に動いていけばいいなと思います。

あくまでも、この会議の目的は男女平等参画社会を推進するためのコアであります。そしてネットワークの皆さんですとか、あるいは今日もワークライフバランスで表彰を受けられた企業の方々があります。今年も間もなくワークライフバランスの表彰がありますけれども、そういうことの上に少しずつ、じんわりとですね、広げていきながら、男女平等参画社会、あるいは都市への

チャレンジの輪をさらに広げていけたらいいなと思っています。

市民会議としての事業はさることながら、もう少しいろんな意見を触れ合わせる場というものも、市民会議がイニシアティブを取りながら、ここの提案でそういうのを作っていきたいと考えています。具体的には次の市民会議でご提案をできればいいなと思っていますが、僕自身は、タウンミーティングとか、シティミーティングとか、男女平等参画にこだわったオープンミーティングみたいな感じでやってみたいと考えています。

我々が見出した方法をどうやって強いウェーブにしていくか、ということも含めて、次の市民会議でみなさまから意見をいただきたいなというふうに思っておりますので、そんなイメージで年を越していただければ。初夢は男女平等。これでいきましょう！（笑）